

P5

## 物理探査調査研究活動データベース EXACTS

中塚 正<sup>1</sup>・森尻理恵<sup>2</sup>・広島俊男<sup>2</sup>・古宇田亮一<sup>1</sup>・村田泰章<sup>2</sup>・山本洋一<sup>1</sup>  
 ( <sup>1</sup>産総研地質調査情報部, <sup>2</sup>産総研地球科学情報研究部門 )

### Geophysical Exploration Activity Database EXACTS

T. Nakatsuka, R. Morijiri, T. Hiroshima, R. Kouda, Y. Murata and Y. Yamamoto  
 (Geological Survey of Japan, AIST)

#### 1. はじめに

このデータベースは、日本の各機関で進められた物理探査調査研究について、アンケート調査により「いつ、どこで、誰が、何のために、どういう規模で、どのような調査を実施したか」を、できる限り網羅的にリストアップし、それを整理したものです。

このデータについて従来は、産総研地質調査総合センターの前身である地質調査所が、毎年「物理探査調査研究一覧」の形の冊子を編集・発行してきました(2001年第43集まで)。このうちデータが当初から電子化されていた第36集以降のものについて、データベースがすでに構築され、昨年10月から公開しています。冊子の「一覧」およびデータベースの基礎データは、概ね各データの「実施機関」欄に記された調査会社・機関のご努力と、関係する多くの各機関のご協力によるものであり、ここにそれら関係各位に感謝します。

#### 2. EXACTS データベースの内容とその構造

物理探査調査研究活動データベース(EXACTS)の個別データは、主として各調査の「実施機関」欄に記された調査会社・機関から提出いただいたデータを基礎に構成されており、データベースの構造も、基本的にアンケート調査の回答項目に対応したもの(右表)となっています。

ほかに、冊子体出版物上での登録記号番号やデータベース上での管理番号などの情報がありますが、検索表示の対象にはなりません。

いずれの項目のデータも文字列データであり、「分類コード」と「現場期間」の項目を除いて、日本語(いわゆる全角文字)が使われますが、データベース上では英字・数字・通常の記号などはASCII文字(1バイトコードの半角文字)に統一してあります。

|                  |   |
|------------------|---|
| <b>件名(題目)</b>    | 調査の呼び名や工事の件名など当該調査を特定する名称   |
| <b>方法</b>        | 調査研究に使用した探査の方法の名称   |
| <b>分類コード</b>     | 調査対象の大別を示す1文字のコード(M:金属・非金属 C:石油・ガス・石炭 W:地下水 T:地熱・温泉 E:土木建築 G:地質構造 L:研究その他) + 方法の種類(複数選択可)を示すコード(g:重力 s:弾性波 a:海上地震 e:電気・電磁 m:磁気 r:放射能 c:地化学 t:測温 l:検層 o:その他) |
| <b>場所</b>        | 調査地の所在地など   |
| <b>緯経度座標</b>     | 地図上での検索機能のための概略の緯度経度、その範囲など(準備中)  |
| <b>地形図名・地勢図名</b> | 調査地の国土地理院発行 1/5万地形図名・1/20万地勢図名  |
| <b>測線/測点等</b>    | 測線延長、調査面積、測点数、測定深度、孔数やキースペックなど  |
| <b>実施者氏名</b>     | 調査に直接携わった主要な調査者   |
| <b>実施機関</b>      | [通常は実施者の所属機関]   |
| <b>依頼機関</b>      | 契約等により調査を実施した場合の発注元機関   |
| <b>関係機関</b>      | 当該調査実施にあたり上記以外の機関に特別な貢献があった場合   |
| <b>資料保有機関</b>    | 調査結果の資料を保有する機関  |
| <b>現場期間</b>      | 現地での調査が実施された期間  |
| <b>概要</b>        | 調査の趣旨・目的・結果の概要など参考となる情報   |

#### 3. 日本の物理探査活動状況

物理探査調査研究活動データベース EXACTS は、旧地質調査所(現 産業技術総合研究所 地質調査総合センター)で日本における物理探査活動をアンケート方式によって調査し、これを整理・編集して「物理探査調査研究一覧」として出版してきたものを引き継いでいます。

この調査は公的機関としてのアンケート調査とはいえ、法的拘束力のある調査ではないので、収録される情報は回答を得たものだけに頼っており、必ずしもすべての調査を網羅しているわけではありませんが、官公庁・大学・公的機関等の調査研究や企業秘密に属さ

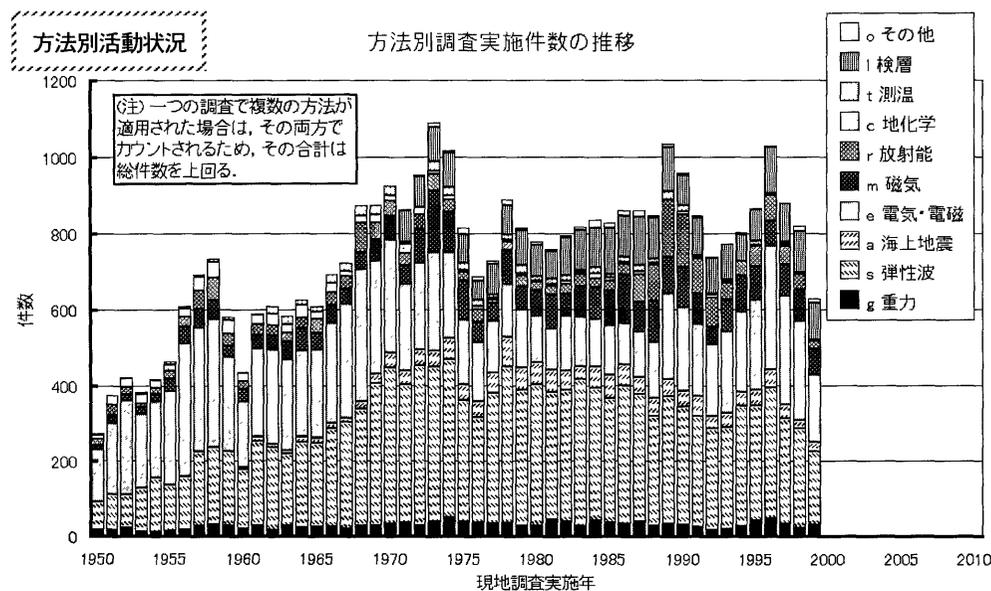
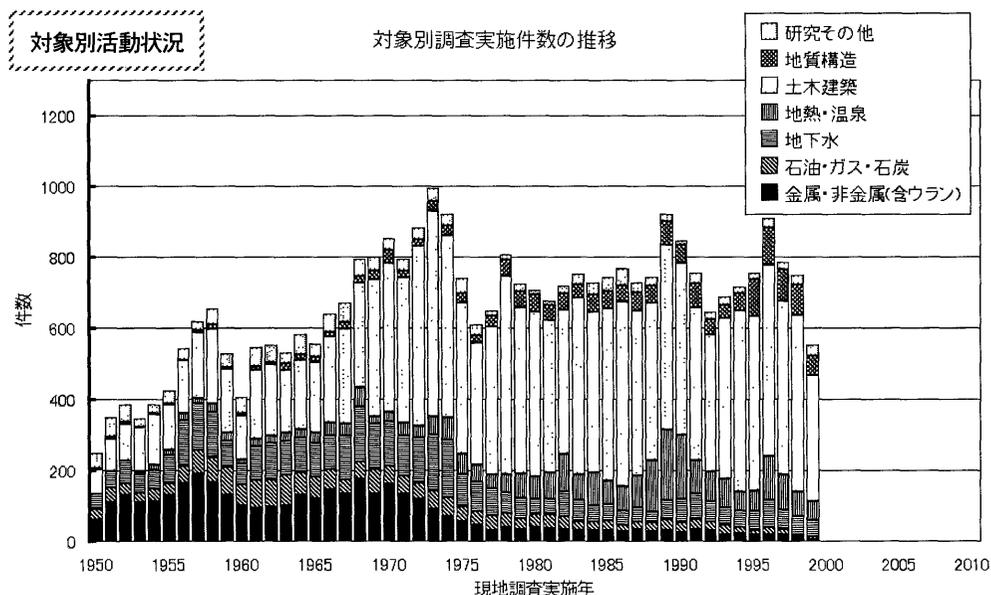
ない情報についてはかなりの数を収録できていると思われまます。

「物理探査調査研究一覧」は、1949(昭和24)年に物理探査技術協会(現物理探査学会)が1940~47(昭和15~22)年実施のデータを編集出版したのに始まり、1939(昭和14)年以前の遡及調査データも収集されています。その出版は、1956(昭和31)年から地質調査所に引き継がれ、1963(昭和38)年からは暦年単位での出版が定着しました。

冊子データベース「物理探査調査研究一覧」の変遷

と内容については、「中塚・堀川(1989)日本の物理探査活動情報データベースの現状.(土と基礎, vol.37, no.1, 35-39)」をご参照ください。

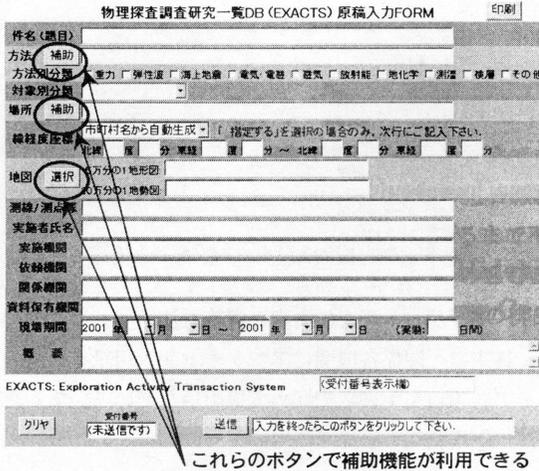
以下には、一定レベルのアンケート調査が行き届いていると考えられる1950年以降に実施された物理探査活動について、調査目的となる対象ごとおよび適用された探査方法の種類ごとの調査実施件数の推移のグラフを示します。(我が国の経済状況・国内の産業構造の変遷をもよく反映しています。)





② Web 入力

入力作業の補助手段もある程度整えてあります。(確認手段として回答者のメールアドレスが必要です。)

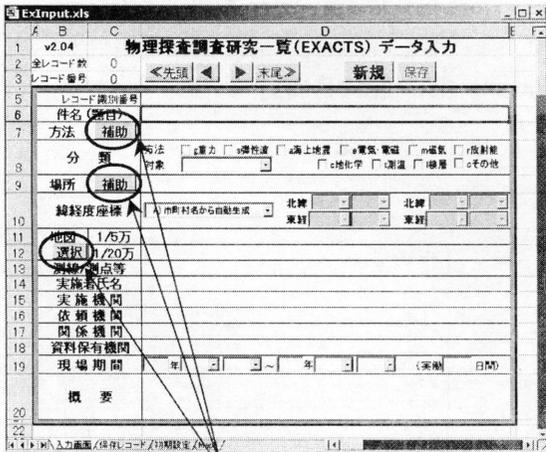


これらのボタンで補助機能が利用できる

③ Excel ファイル一括入力

表計算ソフト Excel の上で多数件数の入力作業を行い、全入力作業の終了後に、全件データをまとめた出力ファイルを作成し、一括送付する方法です。マクロ機能を使って各種補助機能を装備しています。

<データ入力画面>



補助機能ボタン

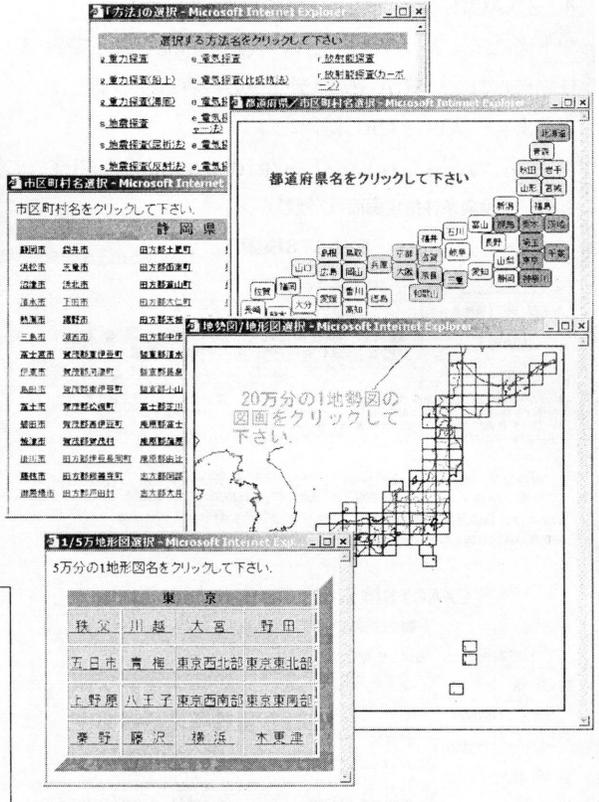
6. EXACTS アンケート調査にご協力

このデータベースは、関係各機関ならびにそのご担当者のご協力によって成り立っています。これまでのご協力に感謝するとともに、引き続きご支持をお願い致します。

連絡先: [exacts@m.aist.go.jp](mailto:exacts@m.aist.go.jp)

<http://www.aist.go.jp/RIODB/exacts/>

<Web 入力の各種補助手段画面>



<Excel ファイル一括入力の補助機能画面>

